



廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

令和4年
8月25日
第5号



今年は、3年ぶりに新型コロナウイルスによる行動制限がなかったお盆休みでした。先生方は、ゆっくり休養することができましたでしょうか。全国的に帰省や旅行などを楽しむ人が多かった一方で、帰省先、あるいは自宅に戻った直後に新型コロナウイルスに感染したというケースも多く見られています。

まだまだ心配の絶えない日が続きますが、2学期からも、感染拡大防止対策を徹底しながら、チーム廿日市で頑張っていきましょう！

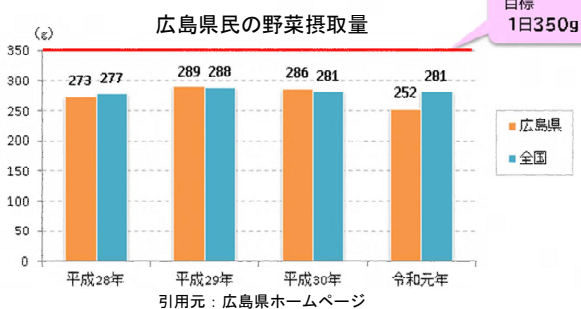


8月31日は「やさいの日」です

廿日市市では、8(や)3(さ)1(い)の語呂合わせから、8月31日を「やさいの日」とし、野菜を食べることの大切さを普及啓発しています。

野菜は、ビタミンやミネラル、食物繊維を豊富に含み、健康維持には欠かせない食べ物ですが、近年の日本人の野菜不足は深刻化しています。

令和元年の国民健康・栄養調査結果によると、1日に摂取したい野菜の摂取目標量350gに対し、県民1人1日当たりの摂取量は252g(参考値)と約100g不足していました。野菜料理を1日5～6皿食べて、暑い夏を元気に過ごしましょう。



野菜が不足すると…

- ・免疫力が低下する。
 - ・肌が荒れる。
 - ・疲れやすくなる。
 - ・便秘や下痢になる。
 - ・生活習慣病の要因になる。 など
- 不調の原因になります。



これからの幼保小連携・接続の在り方

令和4年7月29日(金)に、幼保小合同研修会を実施し、安田女子大学・安田女子短期大学の客員教授 朝倉 淳先生に講演をしていただきました。

これからの幼保小連携・接続の在り方ー子どもの育ちを見取る楽しさー

- 担当者だけでなく、**組織全体**で行うことが大切。
- 園・所が小学校と**つながっている**ことが分かる⇒保護者の**安心**
- 交流活動は、それぞれの子どものための交流となるようにする。
子どもが考え、準備、実施、振り返る。このくり返しにより**双方の学び**となるように。
- 大人から見れば些細なことかもしれないが、子どもにとっては大きな心配、不安、困惑、混乱…であることもある。これらを**どう受け止めてどう支援するか**。
⇒**安心**を基盤として、**自己を発揮し、挑戦**できるように。
- 幼保小連携・接続、推進にあたって、大切なのは紙ではなく現実！計画ではなく実践！
実践しながら計画を見直し、修正していくことが大切。

小学生がお世話係になって全部やってしまい、園児は見ていただけ…という交流では×

7月に、原保育園・原小学校の保育参観・事後協議に参加させていただきました。原小学校は、1年生担任だけではなく、校長先生をはじめ、他学年の教職員も参加し、交流のねらいを共有した上で、参観・協議に臨んでいました。

何のために参観・協議をするのか、視点を共有した上で交流を行い、次につながるものにしていくことが大切ですね。



キャリア教育の充実に向けて

【長所（自己PR）を聞ける・言える環境づくり】

キャリア教育においては、仕事理解だけでなく自己理解と積極性の支援も重要です。

★ポイント★

自身の長所（自己PR）が言えるように支援する！

最終的に目に見えるような結果や実績が出ていなくても、途中でのささいな努力や工夫で構いません。「**良い所**」「**出来ている所**」「**気をつけている所**」に**焦点を当てて探し、見つけ、伝えてあげる**ことで、児童生徒はいい気持ちになり、次の積極的な行動や発言につながります。

また、児童生徒は、自分から自分の長所（自己PR）を言うことにリスクを感じています。教師側が「**周囲から否定されない**」「**周囲から認められる**」という**安全な環境を確保してあげる**必要があります。

～長所を聞き出す・引き出す工夫～

- ・保護者や部活動・委員会の顧問、班のメンバーなど、児童生徒本人以外の口から長所を語ってもらう。
- ・「長所」ではなく、「頑張ったこと」「努力したこと」「工夫したこと」など、具体的な質問に変える。
- ・「楽しかったこと」「時間をかけたこと」など、価値基準をあまり含まない質問に変え、本人の過去のエピソードの中から、本人が気づかない頑張りや努力、工夫などの長所を周囲が見つけてあげる。

このような活動を通して、「長所を生かして挑戦する」「長所で集団に貢献する」児童生徒を育てていきましょう！

「学びの革新」の更なる推進

広島県児童生徒学習意識等調査の結果が公表されました。そこで今後に向けて、廿日市市内全体の状況および自校の状況を把握し、「主体的な学び」を実現する授業改善に生かしていくことが重要です。

「主体的な学びに関わりの深い4項目の調査」

- ①授業では、情報を、比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見付けたり（関係付け）して、何が分かるのかを考えています。
- ②授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。
- ③授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。
- ④授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。

自校の結果は、日頃感じている児童生徒の実態と比べて、どうでしょうか。

もしかすると、ギャップがあるかもしれません。児童生徒の意識が、なぜこのような数値になるのか分析するとともに、児童生徒が「情報を整理・分析する時間」「自分の考えを対話によって深めていく時間」の充実を図る授業づくりを行っていきましょう。



アテンション ぶい〜ず !!



佐伯中学校アーチェリー部
部活動指導員 平野佑樹さん

今月は佐伯中学校アーチェリー部で部活動指導員をされている平野佑樹さんにお話を伺いました。平野さんは佐伯で放課後等デイサービスの事業を立ち上げ、発達障害の子どもを含めたインクルーシブ教育を行っていました。

その活動に自身が打ち込んできた競技であるアーチェリーを取り入れ、今年度から佐伯中学校の部活動指導員としても活動されています。

先日行われた全日本小学生中学生アーチェリー選手権大会では部員である2年生沖野直晴くんが全国3位という素晴らしい成績をおさめました。

Q1. 指導の際に大切にされていることは？

とにかく楽しんでやることですね。メンタルがパフォーマンスに大きく影響する競技なので、人にやらされるのではなく、**内発的に動機づけられて主体的に練習に取り組むことが競技力の向上に欠かせない**と考えています。ここでは、未就学児から高校生まで様々な目的で活動していますが、楽しむことについては共通している目的です。

部員の生徒たちに平野さんについて話を聞くと、すぐに「信頼できる」、「困ったときにはすごく頼りになる」と嬉しそうに話してくれました。そんな平野さんと佐伯中アーチェリー部の今後の活躍に注目です！

Q2. 指導者としての目標は？

やはり**日本で一番の選手を育てたい**という気持ちはあります。また、アーチェリーというスポーツを通して**人間的に成長をしてもらいたい**というのが目標ですね。選手には「やりたいこと」と「やるべきこと」は違うということを伝えていきます。

ここでの活動を始めて、学習にも力を入れ始めた選手もいます。

人間としての成長が競技力につながっていくと考えています。

